

面白いよ文学術書が



春風社

Shumpusha Publishing Co., Ltd.

〒220-0044

横浜市西区紅葉ヶ丘53 横浜市教育会館3F

TEL: 045-261-3168 MAIL: info@shumpu.com

(担当: いしばし・かばた)

ゴッホ『糸杉と星の見える道』(1890年)



博士論文をもとに書籍化した既刊一覧

無限の声を

博士論文の書籍化について

テーマをえらび思索を重ね、論文を執筆、審査をとおつて初めて学位が授与されます。テーマには書き手の体験と声が眠っている。学位を得た博論は、土に蒔かれた種にも似て。よき土の中で殻が破れ、根を出し、発芽の手伝いを編集者はする。一冊の本が上梓される。地上に芽を出し、初めて、これはアサガオ、これはカラマツと。体験はひらき声を発する。成長し、次なる時代への種を宿す。生涯つづく研究の始まり。文章との対話に学び、学術書の出版を手がけて20年。高邁と崇高を指し示し、未来をひらく学問の営みに謙虚でありたいと願っています。

- 『フェイス相互作用理論——日本語学習クラスにおける相互作用からフェイスワークをとらえる』横溝環
- 『フェルナン・レジェ オブジェと色彩のユートピア——キュビズムからフランス人民戦線まで』山本友紀
- 『巫者のいる日常——津軽のカミサマから都心のスピリチュアルセラピストまで』村上晶
- 『Pragmatics of Uncertainty: Its Realisation and Interpretation in English and Japanese』田中典子
- 『プロンテ小説における病いと看護』川崎明子
- 『文化遺産はだれのものか——トルコ・アナトリア諸文明の遺物をめぐる所有と保護』田中英資
- 『ヘラジカの贈り物——北方狩猟民カスカと動物の自然誌』山口未花子
- 『変容するテレビニュースとキャスターの役割』深澤弘樹
- 『保育形態論の変遷』橋川喜美代
- 『冒險する身体——現象学的舞踊論の試み』石渕聰
- 『ボルネオ 森と人の関係誌』佐久間香子
- 『まちづくりのエスノグラフィ——『つくば』を織り合わせる人類学的実践』早川公
- 『見る・見せる——中国四川・福建の表演にみる「演じる」こと・人・空間』細井尚子
- 『明治・大正 東京の歌舞伎興行——その「継続」の軌跡』寺田詩麻
- 『明治大正露文化受容史——二葉亭四迷・相馬黒光を中心に』小林実
- 『やわらかな開発と組織学習——ニジェールの現場から』閑谷雄一
- 『L'INTERACTION EXOLINGUE : ANALYSE DE PHÉNOMÈNES MÉTALINGUISTIQUES』石川文也
- 『雪媒のいる街——北タイ・チェンマイの宗教復興』福浦一男
- 『ロールズ 誤解された政治哲学——公共の理性をめざして』堀巖雄

博士論文をもとに書籍化した既刊一覧

- 『アメリカの対日通貨政策の形成——1971-2003年の日米通貨交渉を事例として』増永真
- 『アメリカは日本文化をどう読んでいるか——村上春樹、吉本ばなな、宮崎駿、押井守』芳賀理彦
- 『アントニオ・タブキ——反復の詩学』花本知子
- 『言いさし発話の解釈理論——「会話目的達成スキーム」による展開』荻原稚佳子
- 『依存からひろがる人生機会——インド・スラム地域の人間開発と「子育ての民主化」』茶谷智之
- 『医療制度改革の比較政治——一九九〇~二〇〇〇年代の日・米・英における診療ガイドライン政策』石垣千秋
- 『インカ帝国の成立——先スペイン期アングレスの社会動態と構造』渡部森哉
- 『増補改訂 器としての身體——土方翼・暗黒舞踏技法へのアプローチ』三上賀代
- 『Experimental Studies on Prosodic Features in Second Language Acquisition: Training Japanese learners to produce natural English』伊庭緑
- 『エコソーリズムの民族誌——北タイ山地民カレンの生活世界』須永和博
- 『外見の修辞学——九世紀末アメリカ文学と人の「見た目」を巡る諸説』福井崇史
- 『開発と文化における民衆参加——タンザニアの内発的発展の条件』阪本公美子
- 『学習のエスノグラフィー——タンザニア、ネパール、日本の仕事場と学校をフィールドワークする』川床靖子
- 『神奈川県の方言アクセント——小田原から横須賀まで』坂本薫
- 『カヌードスの乱——19世紀ブラジルにおける宗教共同体』住江淳司
- 『教育と他者——非対称性の倫理に向けて』橋本憲幸
- 『共同体による自己形成——教育と政治のプラグマティズム』生津繁樹
- 『グローバル都市を生きる人々——イラン人ディアスピラの民族誌』椿原敦子
- 『建築人類学——読む・描く・造る』牧野冬生
- 『交錯する戦争の記憶——占領空間の文学』黄益九
- 『子どもの「内面」とは何か——言語ゲームから見た他者理解とコミュニケーション』杉田浩崇
- 『The Sound of Literature: Aspects of Language and Style in The Owl and the Nightingale』菊池清明
- 『The Developmental Process of Japanese Elementary School Teachers Associated with Teaching English while Engaged in Lesson Study』上原明子
- 『視覚スキーマを用いた意味拡張動機づけの分析——完遂を表す複合動詞「～くる」「～ぬく」「～とおす」の場合』栗田奈美
- 『死生学——死の隠蔽から自己確信へ』岩崎大